

令和6年度 近江八幡市水道事業会計予算（案）概要

本市の水道事業は、昭和29年3月、給水を開始して以降、現在もなお市民生活や社会経済活動を支える必要不可欠なライフラインとしての役割を担っています。昨今の水道事業を取り巻く情勢は、人口減少や節水意識の向上、節水機器の普及等により水道水の需要は減少してきており、給水収益は横ばいから減少傾向に転じてきています。水道施設については琵琶湖西岸断層帯地震、南海トラフ地震等に備えた耐震化や老朽化に伴う更新に多額の費用が必要なことから、今後、益々厳しい経営状況におかれていきます。

これらのことから持続可能な水道事業を実現するために中長期的な視点に立ち、水道施設のライフサイクル全体に亘って、効率的かつ効果的に水道施設を維持管理運営し、計画的な水道施設の耐震化、更新等を進めていく必要があります。加えて、安心安全な水を継続して安定的に供給し、公営企業として補助金や出資金等の収入の確保や経費の削減、業務の効率化を図り、健全な経営に努めていきます。

令和6年度においては、給水戸数は増加が見込まれるものの給水人口は減少傾向が続き、年間給水量についても近年の年間給水量等の状況を勘案し、令和5年度より減少すると見込んでいます。従って、給水収益は令和5年度より減少すると想定しています。事業費用について、浄水場等の老朽化や汚泥運搬処分による浄水場等の維持管理に係る委託料は増加すると見込んでいます。

令和6年度から、国庫補助事業を活用するため、企業債残高対給水収益比率300%超を維持しながら企業債残高と内部留保資金のバランスを勘案しつつ財政運営していきます。主な建設改良事業においては、基幹水道施設整備事業の円山配水池耐震化事業を継続して進めており、配水池管理用道路整備工事等に取り組んでいきます。重要管路耐震化事業及び老朽管更新事業については緊急性、重要度等による優先順位に基づき、国庫補助金や一般会計からの出資金を活用しながら取り組んでいきます。

1. 収益的収支予算（予算第3条）

	(税込額)		
	令和6年度 当初	令和5年度 当初	対前年度増減率
水道事業収益	1,812,148 千円	1,803,834 千円	+ 0.5 %
水道事業費用	1,723,325 千円	1,730,071 千円	△ 0.4 %
差 引	88,823 千円	73,763 千円	

※ 上記金額は消費税を含む額であり、消費税処理後の税抜額に基づく損益計算額とは異なります。消費税処理をした後の損益計算における損益収支は均衡する見込みである。

2. 資本的収支予算（予算第4条）

	(税込額)		
	令和6年度 当初	令和5年度 当初	対前年度増減率
資本的収入	689,957 千円	950,968 千円	△ 27.4 %
資本的支出	1,629,406 千円	1,293,486 千円	+ 26.0 %
差 引	△ 939,449 千円	△ 342,518 千円	

※ 収支不足額は、消費税資本的収支調整額及び過年度分損益勘定留保資金で補てんします。

〔補てん財源〕	当年度消費税資本的収支調整額	:	105,161 千円
	過年度分損益勘定留保資金	:	834,288 千円

● 業務の予定量 ——— 予算第2条

	令和6年度 当初	令和5年度 当初	増 減
給 水 戸 数	35,444 戸	35,050 戸	+ 394 戸
給 水 人 口	81,696 人	81,770 人	△ 74 人
年 間 総 配 水 量	9,076 千m ³	9,177 千m ³	△ 101 千m ³
(県 水 受 水 量)	5,887 千m ³	5,979 千m ³	△ 92 千m ³
(自 己 水 量)	3,189 千m ³	3,198 千m ³	△ 9 千m ³
年 間 給 水 量	8,470 千m ³	8,529 千m ³	△ 59 千m ³
一 日 平 均 給 水 量	23,206 m ³	23,304 m ³	△ 98 m ³

※ 令和5年度の年間日数は366日です。

● 収益的収支 ――― 予算第3条

(単位：千円 税込額)

款 項 目	令和6年度 当 初	令和5年度 当 初	増 減	予 算 説 明
水道事業収益	1,812,148	1,803,834	8,314	
営業収益	1,607,894	1,616,229	△ 8,335	
給水収益	1,546,165	1,555,519	△ 9,354	給水人口減少等に伴う有収水量の減少
受託工事収益	3,643	3,674	△ 31	舗装復旧収益
他会計繰入金	9,007	8,809	198	消火栓維持管理等に係る一般会計繰入金
その他営業収益	49,079	48,227	852	下水道使用料収納事務経費等
営業外収益	204,254	187,605	16,649	
受取利息及び配当金	725	616	109	資金運用利息
他会計負担金	10,393	11,699	△ 1,306	駅南及び鉛管企業債利子補給に係る一般会計繰入金
消費税還付金	33,000	15,000	18,000	建設改良費の増加に伴う増加
長期前受金戻入	152,514	143,752	8,762	受贈財産（R5年度古川町宅地造成工事）に伴う増加
雑収益	7,622	16,538	△ 8,916	建物貸与収益等の減少
水道事業費用	1,723,325	1,730,071	△ 6,746	
営業費用	1,663,178	1,667,695	△ 4,517	
原水及び浄水費	799,027	791,868	7,159	県水受水費、浄水場等に係る維持管理費
配水及び給水費	158,786	152,251	6,535	給配水管・量水器等に係る維持管理費
受託工事費	5,594	5,300	294	給水管取出し跡舗装復旧
業務費	82,025	78,383	3,642	総合窓口業務委託等の料金徴収に係る経費
総係費	59,952	94,700	△ 34,748	総務一般管理に係る経費
減価償却費	535,955	523,942	12,013	R5年度送配水及給水設備等の受贈財産及び新規取得に伴う増加
資産減耗費	20,060	20,060	0	固定資産除却費等
その他営業費用	1,779	1,191	588	貸倒引当金等
営業外費用	59,147	61,376	△ 2,229	
支払利息及び企業債取扱諸費	50,781	52,641	△ 1,860	企業債利息
雑支出	8,366	8,735	△ 369	4条特定収入消費税費用化等
予備費	1,000	1,000	0	

○ 営業費用の主な内訳

(単位：千円 税込額)

予 算 科 目	令和6年度 当 初	令和5年度 当 初	増 減	増 減 理 由
原水及び浄水費	799,027	791,868	7,159	
人 件 費	8,751	17,502	△ 8,751	建設改良費に係る人件費1人分を送配水設備改良費に計上したため減少
委 託 料	114,544	84,005	30,539	浄水場等維持管理委託等の増加
修 繕 費	25,000	25,000	0	
動 力 費	54,650	54,650	0	
受 水 費	586,406	589,368	△ 2,962	県水受水量の減少
そ の 他	9,676	21,343	△ 11,667	工事費（牧浄水場ポンプ等）の減少
配水及び給水費	158,786	152,251	6,535	
人 件 費	25,871	53,932	△ 28,061	建設改良費に係る人件費3人分を送配水設備改良費に計上したため減少
委 託 料	25,952	24,316	1,636	量水器取替委託料の増加
修 繕 費	80,362	54,625	25,737	遠隔メーター取替料等の増加
路面復旧費	5,500	5,500	0	
そ の 他	21,101	13,878	7,223	緊急工事費等の増加
受託工事費	5,594	5,300	294	
路面復旧費	5,594	5,300	294	
業 務 費	82,025	78,383	3,642	
人 件 費	15,277	14,285	992	
委 託 料	50,737	48,737	2,000	総合窓口業務の追加業務委託による増加
そ の 他	16,011	15,361	650	
総 係 費	59,952	94,700	△ 34,748	
人 件 費	38,248	37,416	832	
退職給付費	5,287	5,253	34	
委 託 料	2,636	9,909	△ 7,273	旧中部水源地及び南部水源池解体設計委託料等の減少
修 繕 費	2,000	6,822	△ 4,822	緊急修繕費等の減少
そ の 他	11,781	35,300	△ 23,519	工事費（南部水源池解体工事費）等の減少

● 資本的収支 ――― 予算第4条

(単位：千円 税込額)

款 項 目	令和6年度 当 初	令和5年度 当 初	増 減	予 算 説 明
資本的収入	689,957	950,968	△ 261,011	
企業債	500,000	686,700	△ 186,700	
企業債	500,000	686,700	△ 186,700	企業債充当率100%から50%に変更したことによる減少
加入金	36,090	33,581	2,509	
加入金	36,090	33,581	2,509	水道利用加入金
国県補助金	73,374	76,654	△ 3,280	
国県補助金	73,374	76,654	△ 3,280	水道管路緊急改善事業補助金等
出資金	80,493	154,033	△ 73,540	
出資金	80,493	154,033	△ 73,540	重要管路更新事業及び老朽管更新事業等に係る一般会計出資金
資本的支出	1,629,406	1,293,486	335,920	
建設改良費	1,305,628	994,674	310,954	
送配水設備改良費	1,224,138	960,906	263,232	基幹水道施設整備事業、重要管路耐震化事業、人件費等
営業設備費	81,490	33,768	47,722	水道管路情報システム更新、浄水場設備更新等
企業債償還金	323,778	298,812	24,966	
企業債償還金	323,778	298,812	24,966	企業債償還金

○ 建設改良費の主な事業

	(税込額)	
(1) 基幹水道施設整備事業	639,180 千円	
・ 円山配水池管理用道路整備工事	336,740 千円	
・ 長福寺配水池 1 号池改修工事	215,720 千円	
・ 牧浄水場異臭味対策事業 (詳細設計委託、用地買収、登記・地図訂正手数料)	86,720 千円	
(2) 重要管路耐震化事業	261,007 千円	
・ 長福寺送水管布設替工事 (その 1)	115,137 千円	(国庫補助事業)
・ 安土路線重要管路更新事業	55,800 千円	(国庫補助事業)
・ 円山路線 3 舗装本復旧工事 (2 工区)	53,812 千円	(国庫補助事業)
・ 円山路線 2 舗装本復旧工事 (長命寺工区)	14,168 千円	(国庫補助事業)
・ 円山配水池送配水管詳細設計業務委託	13,500 千円	
・ 江頭町県道配水管更新工事	8,590 千円	
(3) 老朽管更新事業	250,375 千円	
・ 老朽管更新詳細設計委託 (下豊浦永町 外 1 か所)	10,215 千円	
・ 老朽管更新工事 (駅前区画整理区域 外 2 か所)	212,310 千円	
・ 老朽管更新舗装復旧工事 (若葉町)	27,850 千円	

● 債務負担行為 ――― 予算第 5 条

事 項	期 間	限 度 額
安土路線重要管路更新事業	令和 7 年度から 令和 9 年度まで	1,002,000 千円

● 企業債 ――― 予算第 6 条

建設改良事業の財源として、500,000千円を計上した。

建設改良事業債	令和6年度 当初 500,000 千円	令和5年度 当初 686,700 千円	増 減 △ 186,700 千円
	令和5年度 末残高予定	: 4,495,317 千円	
	令和6年度 発行額 (借入)	: 500,000 千円	
	令和6年度 元金償還	: 323,778 千円	
	令和6年度 末残高予定	: 4,671,539 千円	

● 一時借入金 ――― 予算第 7 条

一時借入金の限度額として、200,000千円と定めた。

● 予定支出の各項の経費の予算流用 ――― 予算第 8 条

営業費用と営業外費用との間

● 予算流用禁止項目 ――― 予算第 9 条

職員給与費	127,474 千円	(令和5年度 職員給与費	128,327 千円)
交 際 費	110 千円		

● 棚卸資産購入限度額 ――― 予算第 10 条

貯蔵品 (量水器、材料) 購入のため、20,000千円を計上した。

補てん財源残高増減表

(単位：千円)

	減債積立金	建設改良積立金	損益勘定留保資金	未処分利益剰余金	計
令和4年度 期末	90,100	948,500	1,232,148	153,502	2,424,250
積立額 増加要因	0	153,000	400,462	568	
取崩額 減少要因	0	0	262,503	153,000	
令和5年度 末見込	90,100	1,101,500	1,370,107	1,070	2,562,777
積立額 増加要因	0	0	403,654	740	
取崩額 減少要因	0	0	834,288	0	
令和6年度 末見込	90,100	1,101,500	939,473	1,810	2,132,883

※ 令和5年度は既決予算ベース、令和6年度は当初予算(案)ベースとしている。

所管課 上下水道施設課

【予算額】639,180千円 (財源:企業債276,300千円 出資金42,000千円)

現状と課題

円山配水池(昭和52年築)は、令和2年の耐震診断の結果、レベル1地震動に対する耐震性不足であったが躯体は健全である。また配水池までの管理用道路がなく緊急時給水拠点として活用できない。

長福寺配水池は耐震化済であるが、1号池ドーム屋根の老朽化が激しく、他2池の状況も不明。

牧浄水場は夏場の異臭味被害が顕著である。



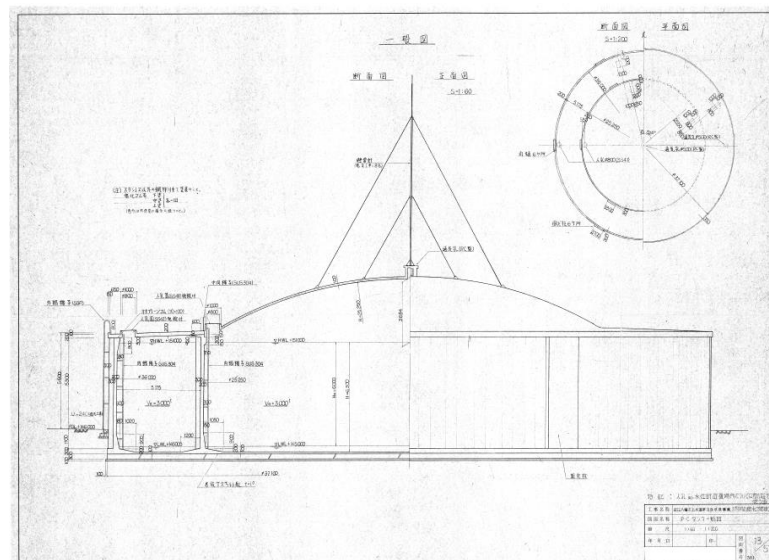
取組

R6～：円山配水池管理用道路整備工事
長福寺配水池1号池改修工事
牧浄水場異臭味対策詳細設計業務 ほか



効果、目指す姿

既設配水池等の耐震補強及び改修により、配水池の崩壊を防ぐとともに、水質の安定化と緊急時における市民への飲料水の安定供給に努める。



円山

PC造、円筒形
直接基礎2槽式
内槽直径25.25m
外槽直径36.00m
有効水深6.00m
流入管φ450
配水管φ600
排水管φ200
6,000m³
= 3,000m³×2池
※車両進入不可

事業施策 重要管路耐震化事業

継続

所管課 上下水道施設課

【債務負担行為】1,002,000千円（期間 令和7～9年度）

【予算額】261,007千円（財源：国費73,374千円 企業債77,800千円 出資金15,900千円）

現状と課題

重要管路の耐震化率は依然低い状況であり、災害時の飲料水等供給の確保が困難である。



取組

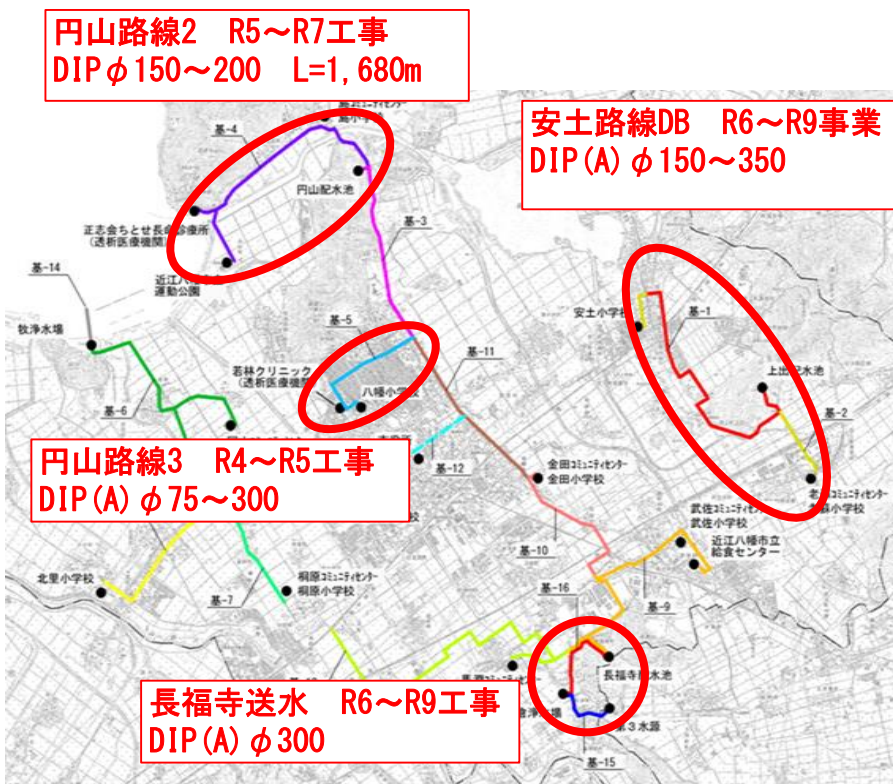
関係機関との調整を図るとともに、R6より設計施工一括発注方式を導入して可及的速やかに耐震管への更新を行う。

R4に円山路線3、R5に円山路線2の工事に着手しており、R6より安土路線及び長福寺送水管の工事に着手する。



効果、目指す姿

南海トラフ地震等の大規模な災害に対する漏水等の事故を抑制することで断水リスクを軽減し、災害発生時における飲料水等の市民への安定供給を図る。



事業施策 老朽管更新事業

継続

所管課 上下水道施設課

【予算額】250,375千円 (財源:企業債103,900千円 出資金21,200千円)

現状と課題

老朽管については、布設後40年以上の経年化率は22.4%、60年以上は0.25%（令和3年度）と低いものの、老朽塩ビ管は漏水事故リスクが高く、修理の際には必然的に周辺住民への断水・濁水リスクも高くなる。



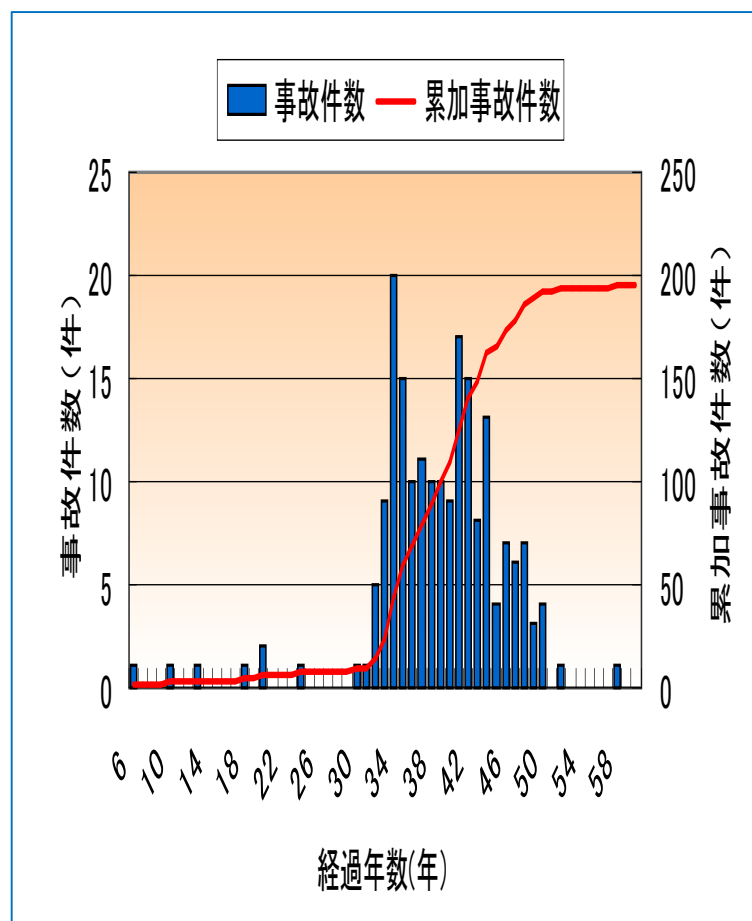
取組

漏水リスクの高い塩ビ配水管を布設している人口密集区域や、漏水による断水・漏水リスクが高い地域から計画的に2~3km/年更新を行う。



効果、目指す姿

老朽管塩ビ管からの漏水等の事故を抑制することで断水リスクを減らし、市民への飲料水等の安定供給を図る。



出典：近江八幡市水道事業アセットマネジメント計画
(平成31年3月策定)